

「保全へ地域の力必要」

下田

東京都市大がウミガメ勉強会 学生が研究成果発表

東京都市大(旧武蔵工業大)環境学部環境創成学科の田中章研究室は3日夜、「第4回アカウミガメ保全のための勉強会」を下田市四丁目の中央公民館で開いた。同研究室の学生、地域住民ら65人が参加し、研究成果の発表やパネルディスカッションを通してアカウミガメ保全について理解を深めた。

学生や環境省、県職員ららが日本や県における保護と保全の状況、先進的取り組みなどを発表した。下田海中水族館の浅川さん、伊豆海洋自然塾代表の斎藤武さんが保全に向けたネットワーク、教育などについて意見を述べた。ネットワークづく

りに関しては「ウミガメをキーワードにするといろいろな人が集まって来る」「守ろうという人が地元で増えないといけない」「保全のために何が良くて、何がいけないのか地域に伝える場が必要ではないか」などの声が出た。同研究室は毎年下田で夏合宿を行っている。2010年、海に向かわず自動販売機の光が集まってしまう稚ガメを発見したことから「世話になっている下田、伊豆の自然に対して何かできることがあるのではないか」と11年から勉強会を開催。13年から一般に公開している。



アカウミガメの保全について意見を交換したパネルディスカッション=下田市四丁目の中央公民館